

古版一覽

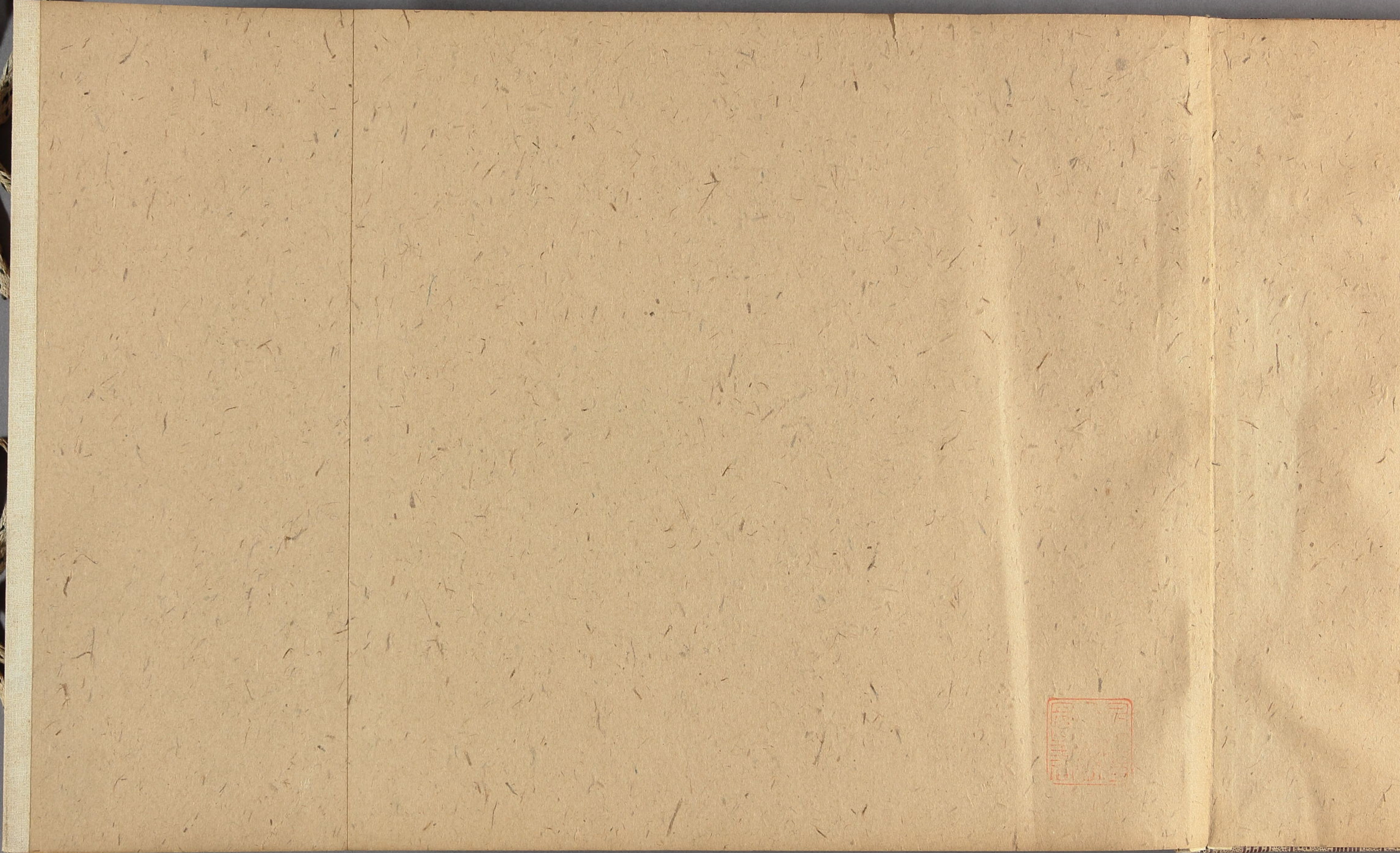
紅丸印

1366



1844
1366





花
切
り
の
し
ら
べ



三
五
三



水滸傳卷之六

第十一條

守教が衆をゆるされし法麻呂金麻呂があとを
返す法麻呂妻子金石獵等に逐ひて紀伊のふまひ

法麻呂政をすま之に去りより衆をさくあり。その衆を壊され。妻子をハ
逐放されぬ。又刑教省より。彼獄卒に禁切せし。身殺ごも。訟の場にいき
あせせく。控責さひく。曰。汝亦給る首乃か。尻おく。うりく。汝のな人を首の
う。にがひおお罪人を。かうく。金麻呂に賄賂せられ。法麻呂をせし。い。う。か。
る。汝の白にせせ。さ。け。ハ。獄卒の。標に。さ。か。さ。ま。た。つ。ね。き。瓜。さ。ら。き。は。な。め。き。
刑罰ハ列本の官乃。守教また之。ハ。列本（或は天をみま谷の列本のことなり）と懲せ。ハ。守教亦色ハ。ま。あ。り。
も。ま。く。し。身ハ。飛。う。る。を。う。り。に。あ。ひ。は。ら。る。國。許。つ。ま。う。し。て。ま。づ。く。え。い。せ。

本朝水滸傳 卷之六 一

び。も。く。せ。と。せ。責。れ。ば。守。教。の。こ。あ。く。泉。津。吹。つ。り。一。海。に。や。つ。ら。ら。ハ。
欺。死。を。い。び。申。ひ。ら。ま。む。さ。り。の。ぐ。あ。つ。ま。へ。死。や。さ。り。い。さ。ら。ゆ。る。り。こ。あ。つ。も。
一人二人乃。あ。ま。も。ゆ。い。づ。れ。も。ち。カ。ハ。佩。ア。大。公。り。さ。り。中。く。に。瓶。か。し。た。
と。く。え。ら。う。も。ま。ぐ。え。き。ハ。あ。さ。あ。の。ひ。も。ま。ぐ。い。若。く。乃。人。の。眼。ま。か。けて。
ま。ぐ。え。に。血。も。い。く。ま。の。腸。か。も。汚。穢。に。し。ら。う。し。せ。を。み。り。の。ハ。嘔。ま。ぐ。
侍。り。一。ま。た。が。い。い。う。ハ。使。を。金。麻。呂。を。承。に。つ。ま。さ。れ。承。ら。つ。時。の。乃。よ。人。未。
ま。く。さ。ら。ほ。穢。あ。ら。た。と。を。か。た。拂。ハ。ん。と。も。か。が。え。い。又。迷。才。を。も。誅。か。ん。死。ま。後。
亦。か。死。骸。と。り。か。り。も。は。あ。ト。さ。ら。ハ。衆。さ。う。に。死。骸。り。侍。り。く。え。ん。と。ハ。首。の。
紙。給。ま。化。う。り。ハ。え。え。い。侍。ホ。う。ま。披。さ。ら。ね。り。く。死。さ。る。よ。ハ。た。が。い。か。い。あ。く。
あ。い。ぬ。の。い。ま。ま。ら。ね。く。も。ハ。瓶。に。ま。ど。い。さ。れ。て。ま。ぐ。る。り。さ。ら。う。ハ。刑。罰。



宇津山小蝶物語第六卷目錄

性以乃積鉄

かく一春盤れとす所
いづれは法兼が忠義
歎とと一神のうつら

鶴鶴代臺

す夜と夜波がは志めん
只ととのとさハコウいとの
英男のすハ物新もや

胡蝶物語卷六

赤物

襟右の女襟とたのよ
龍がたれ出初着か下けは
かことこのもきてあや一

同い善哉関る衆

名乃日おちがさといハ
あそりきとこれとそんハ
七ハ寅の別は昔芳く

千世と徳夢

二言といぬ一也の
ゆりりと出たせ志賀れ置
世れ別め阿漕が浦

二入びくは

二人びくは 九相別 下

わしてさやあわとよとあゆめたささくはとさあ
このんをせはらり類乃さしらも毎日をそあやあ
あさああらあけらあなる命を今とつらとありと

かすて。管平乃。孫をわらふ。城をくると。す
は。せ。ひ。と。え。れ。み。し。れ。く。さ。よ。こ。り。の。り。や。



海上

二六



月夜

やすして。管平乃。取をれる。城を。と
これ。皆。ゆ。先。れ。み。ゆ。れ。く。云。と。う。ご。を
甲。く。ま。き。こ。が。ふ。列。と。久。と。せん。ま。佛
う。ゆ。せ。ま。う。後。子。そ。飛。と。け。ま。ん。也
又。四。回。山。廻。く。昔。を。更。ゆ。す。お。わ。や。ん。の。ま
人。乃。高。生。と。道。小。落。内。と。云。の。保。か。下。ま
と。ま。け。ど。ま。け。下。案。と。ま。け。ど。案。生。と。
人。死。て。も。人。と。好。り。る。死。て。も。と。好。り
一。何。ぞ。高。生。不。如。と。云。の。あ。ん。や
十五

管平乃。信。地。信。乃。道。理。之。不。辨。本。意。也。
人。乃。一。一。之。也。地。信。乃。類。々。く。事。の。本。を。
中。々。め。好。し。只。実。と。ゆ。く。権。と。す。者。信。
乃。類。々。く。人。乃。高。生。と。云。を。以。て。權。と。す。
高。生。か。ら。し。と。人。乃。高。生。と。云。を。起。す。人。乃。地
如。好。り。我。女。を。高。生。な。れ。と。以。て。之。如。
たり。又。人。乃。如。も。高。生。れ。い。と。も。い。の。忽
高。生。と。生。成。好。ま。り。如。好。り。と。云。の。河。と。流
ひ。流。と。云。と。を。一。の。事。あり。又。四。回。山。廻

せうのりくつめぐるれあうたるも。まがれに
 げさひ月れでう。されたせいのぞん一人世
 ようれをげんらんこころまれとにか
 きて。いとせいのむられたぞんこころ
 うもよと座りよ。てたのこありだも
 けりもよとこよ。れりく。こころまがれに
 のころまがれに。せれれこころぬれ代と
 かにのり。されとも。りて。まがれに。たり
 そあよも。あうぬれえんとむまがれに
 ぜんせれらごりあさう。びのりれせ
 うけてたのも。く。こころまがれに。ありな
 れた。たがひよ。屋ごて。教。こころまがれに。か
 らひ。あま。げれ。ま。清。し。げ。て。の。を。ま。が
 れ。に。ら。う。あ。紙。す。ら。ん。た。く。ら。ん。ご。り。に
 た。う。紙。う。け。い。さ。り。の。人。あ。ま。が。れ。に
 ら。ぬ。ま。し。ひ。く。ぬ。り。さ。ん。た。う。れ。い。ま
 とも。ま。が。れ。に。あり

▲薄草紙

▲下十六

薄れまじ下終

寛文二^{十五}年五月吉日

三条通菱屋町

ぬ屋仁吉

大福新長者 巻四
 異胎棚とれくの橋と後り橋の町の橋を縁を色目ド
 棚つた作久男れ面い糸の紙賣糸町の魚市米打枝の賣
 実尼棚乃流石向を通り町の懸昌い赤町あふへ下風後

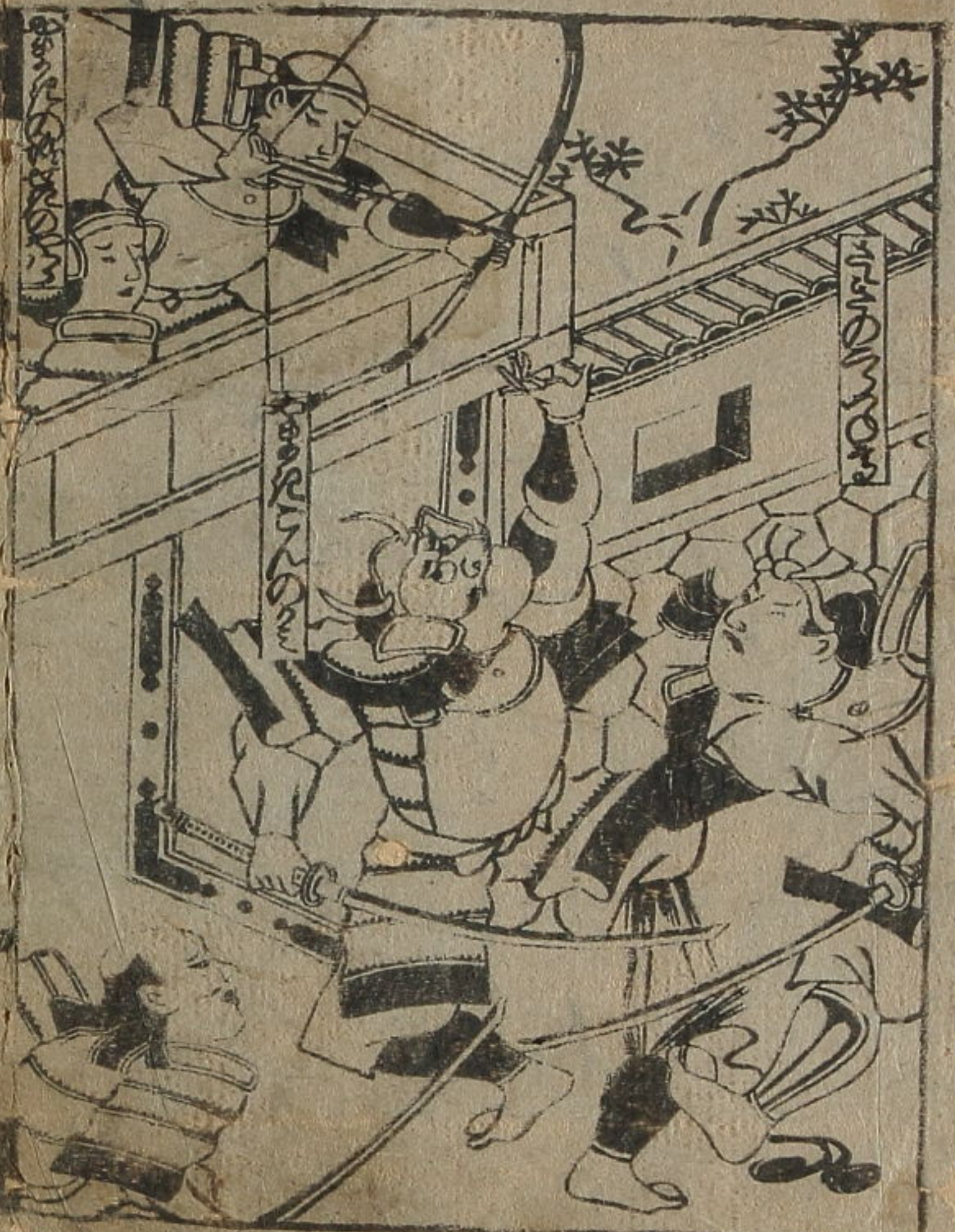
具胎棚をれくの孫と後り傳る町の翁を翁を色傳り
棚つた庄久男れ無義乃紙賣舟所の魚市未打枝の賣
美尼棚乃江花同左通り町乃無昌い亦町あり人月終
く雲路小澄雲町ハ下踏寄踏乃細之入自船所の櫓乃
音肯りく人を無職かりすしお日用九つをばあ山伏
いと自勝梅切癒乃膏茶賣い分と傳り船り色
翁さど人へ侍るそは美志ひんよを分治い船り色
ぬる房毛給乃てあるのあとはは船をえ包り色
く後りぬ度兒町筋小只そ人そ時を船指ひてやち
雛一珠教をそややく中橋の力脇指れ棚おして二家
い美くかんくつる程なく今乃船負れ榮カとさひそ又
りしれ珠教をそ後生入るりて命乃珠とつあうれ
人のあつけし房道と一籠よそとくくくく



くつたまは
ぬうのめり
女さのけんを
こまひにちめい
うんせいのしん
れいあふに
二子のあはを
おあふりまふあ
ふん

くつたまは
ぬうのめり
女さのけんを
こまひにちめい
うんせいのしん
れいあふに
二子のあはを
おあふりまふあ
ふん

Handwritten text in a vertical column, likely a chapter heading or introductory text. The script is a traditional East Asian style, possibly Chinese or Japanese. The text is densely packed and runs vertically down the page.



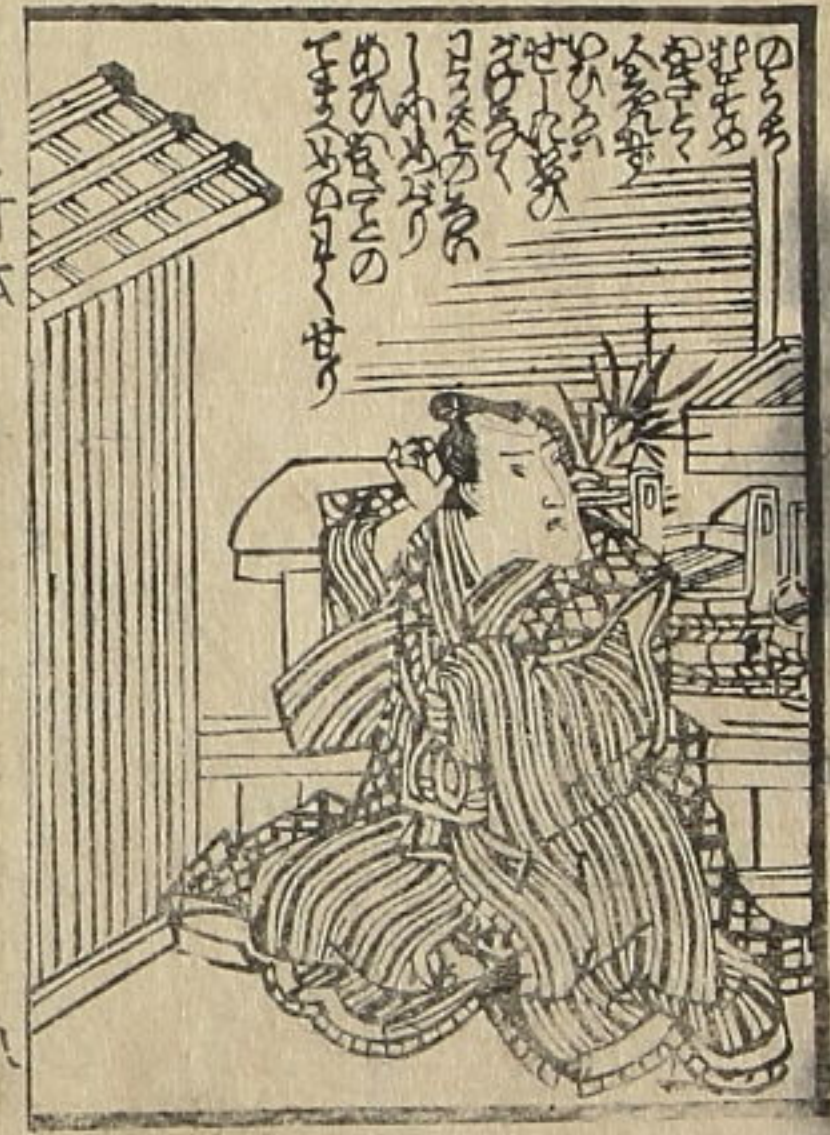
Handwritten text in a cursive script, likely a historical or literary account, written on a separate piece of paper pasted onto the book's page. The text is arranged in several columns and includes some decorative elements like a small cross and a horizontal line.



Small vertical text label on the left side of the illustration, possibly identifying a character or a specific part of the scene.

Small vertical text label on the right side of the illustration, possibly identifying a character or a specific part of the scene.

京産



京都卷第五目錄

東の西の町

寺之内通

上之賣通

中ノ町通

下ノ町通

今川通

九段通

本町通

一條通

西町通

南門通

中町通

新町通

東町通

東門通

春日通

大坂通

...

...

京

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

京都卷第五

...

...

...

京麓を第五 少り南へ横町あり

○寺之内通 東の相妙寺北西塔平一とくはあり

○也多寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ所 ○ありのきりの所

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

五ノ米

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり

○あやむ寺通 此所への北の北とあへり



みづのうら

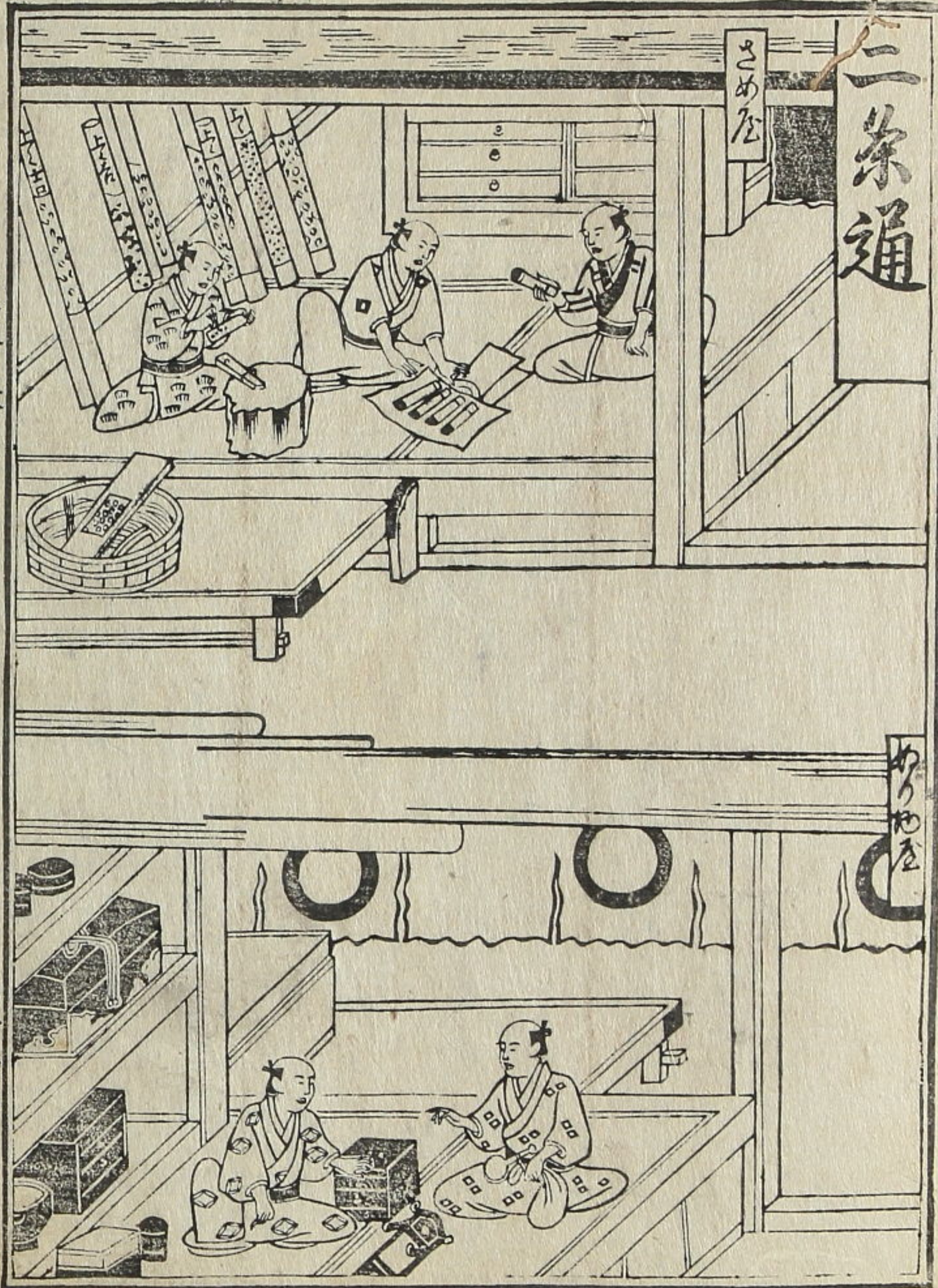
京五ノ表

町六ノ後

ちくね浦川とてきこふとね浦川とてらふの
 物わきしし(真)飯くつりりそれとらひり
 てらまひいあふ町入るす
 け所神宮寺七日此参礼よまき入る三神お極
 大奉事とらふり三神山と号してはつら
 新可あつらひ
 ○あつらひ所
 庵とつひてゆえやあつらひ
 け所少町の藤原おあ乎まのやあつらひ
 け所あつらひ
 ○せまん町
 け所少町の藤原おあ乎まのやあつらひ
 け所あつらひ
 ○せまん町
 け所少町の藤原おあ乎まのやあつらひ
 け所あつらひ
 ○せまん町



三茶通



押小路通

○五所通や可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

○いしりや可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

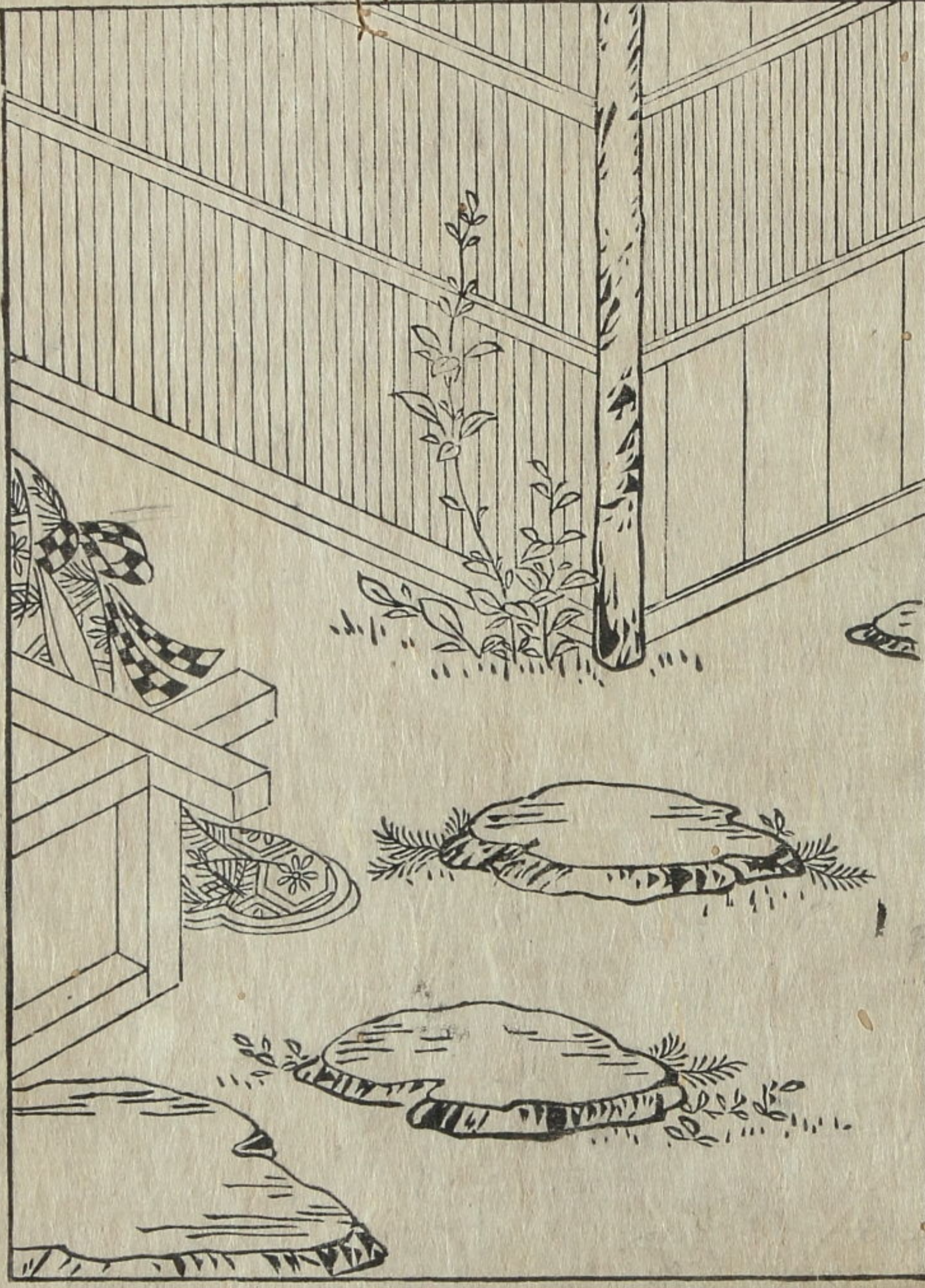
〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり 〇いしりや可いしり

Handwritten text on a slip of paper at the bottom left, possibly bleed-through or a note.

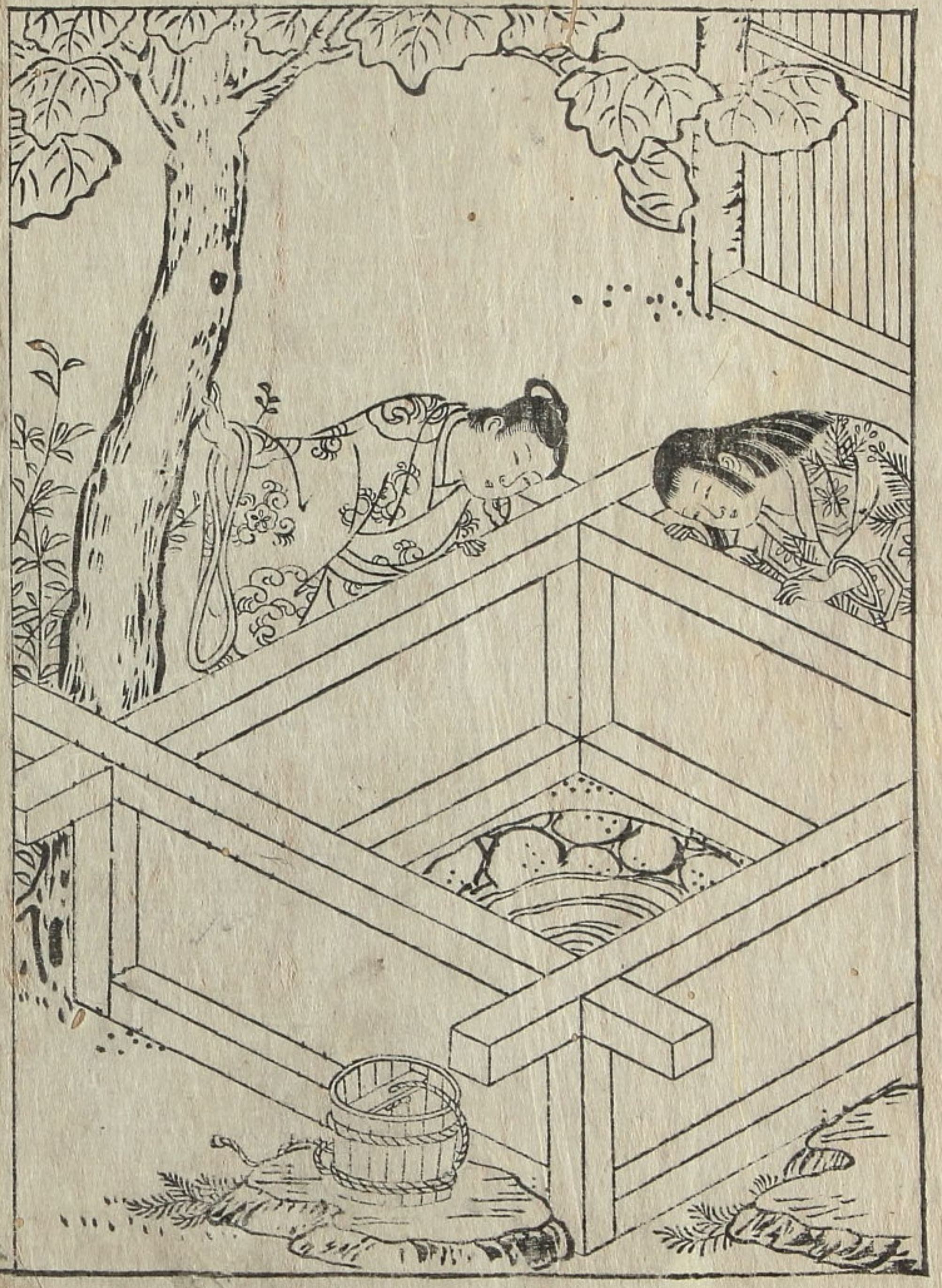
Handwritten text in a vertical column on the right edge of the page, possibly a title or chapter heading.

Handwritten text in a vertical column, likely a chapter or section title, written in a cursive style.



上九又

終るは... 十日... 終るは... 終るは...



○ 終るは... 終るは... 終るは...

終るは... 終るは...

○ 終るは... 終るは... 終るは... 終るは...

○ 終るは... 終るは... 終るは... 終るは... 終るは...

元 銘古板

胸葉用

大晦日二日全

巻五

目録

一 清まりて此夜市

新及古の申しく
いりくはきぬの月

二 老免の油とこれ

秋の目にうら
江戸早の油

三 平太郎の夜

く申のやねを
一夜にうぬくの世の

四 長久の江戸棚

これめの時が
喜のさめし

胸葉用

五十一





胸養所

○少くもちりちりもきれたる見るとの灯派治お出候に物有
 どのへとぞとほお種徳利のちいさきに八ぬでござるこ
 陽目ふらなつて雲ぬといふ事なき四十六年けしと春ら
 しくおけ酒のち毎日本づらして字あや中をま
 毎日二十字ぬの読つともしく十二と読りて銀に申
 西夏八百字目するといふ男ががすともさやににさハセ
 師どいとのと笑少人のまもといは船治とあはれあはれ
 つきつと世中にならぬのこたはぬおれをさしとさし
 うゆい海をぞと吞けぬ流にさ年のお物目にお師
 に正月の月をさしとてやうらいらく借りとささく海小舟

つゆらの夜の市

美しみの高しそいそいそとせらりぐはまうこころの毎日の事
 ずらとちやんとすしつらにおほげほまうそとつらうそとせらり
 なりいそいそいそいそつらうつらうつらうつらうつらうつらう
 にあつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 大場にはいそいそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 人への物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 をかぬゆゆせりせにのゆゆの銀をうそと見たりたつと見たりたつと
 にこそまはしつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 月々の物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと

胸葉用

今ハわつと葉にまゝつらうの物らんそと見たりたつと見たりたつと
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 米にわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
 ーにわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
 のまらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
 のはつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 いそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ
 かなにまらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
 浮世の物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 絲の物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと

くらげの物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 くらげの物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと

くらげの物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと
 くらげの物らんそと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと見たりたつと

らんじりてし自中のそしぬらう事すしこころもく大だの大
そとすけしとそりてとぬらう事すしこころもく大だの大
ぬらう事すしこころもく大だの大
月にまはつてまはつてまはつてまはつてまはつてまはつて
すまにらぬらう事すしこころもく大だの大
ほららんに何れぬらう事すしこころもく大だの大
すまにらぬらう事すしこころもく大だの大
まにらぬらう事すしこころもく大だの大
とてすまにらぬらう事すしこころもく大だの大
らぬらう事すしこころもく大だの大

脚書用



江戸にもあつたものこそわが威勢の四ノ目
大カ目録の中袖巻の札箱入のらうらう竹まき
代のまめだく町並の門松をせりしめ
お世様の物有げをたのむに
ぬいかにあは

元禄八年申年初湯吉日

東三條通堀町

上村平兵衛

江戸吉物町

高橋屋

大坂橋本町

伴世太右衛門

板行

書肆

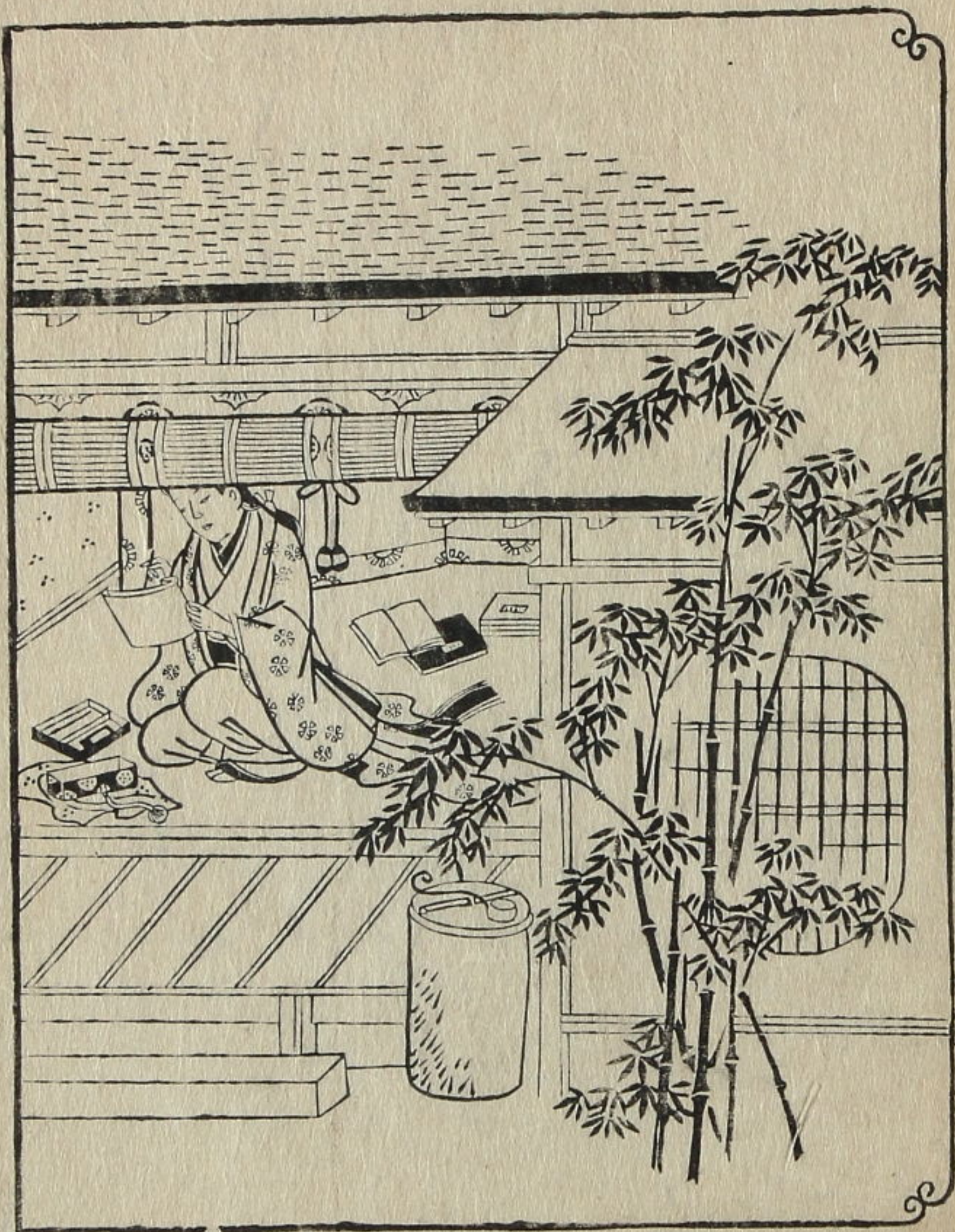
は種れふゆゑ

三

帰馬乃文下目録

- 一 女の形やうれり
- 一 善悪の友にふれとふり
- 一 幸ふ者の事 付 儒者の娘乃り
- 一 物々乃の流やうを更れり 付 儒佛の流を引て切るり
- 一 女と女殊に持事
- 一 文章終乃り

三五



五十一

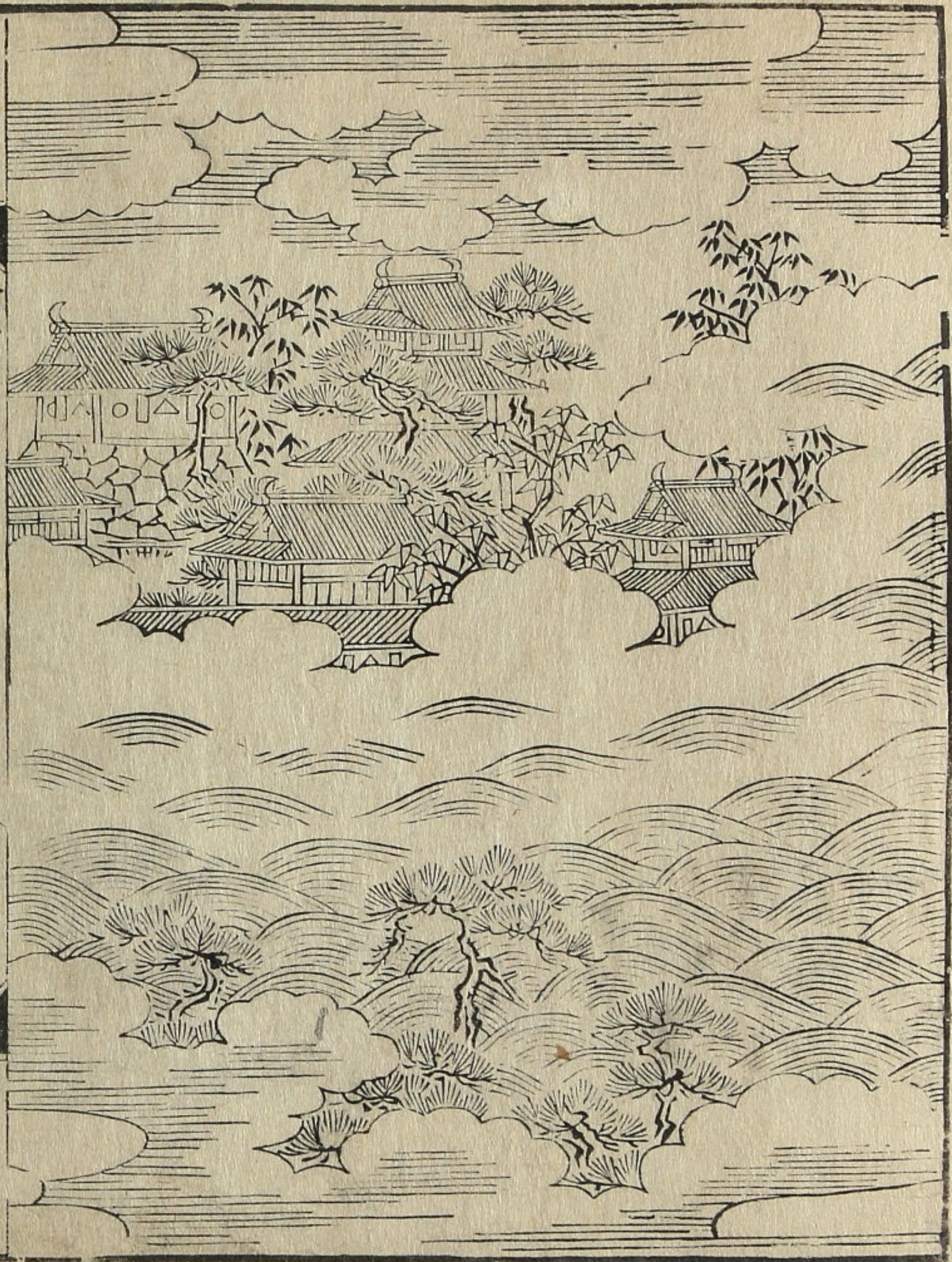
きしきふもてうはつりゆぞとーりりるるまよか
 かどいよこーい球揚たるるもさしりらんらりる女
 こゝろのこゝろもれまよはあめぞわあまら
 りるもるるるるのいよまーくおまーいよま
 ーくうあまのいよまをいよまのいよま
 けーくがまのいよまーあまのいよま
 とりりいよまのいよまかーいよま
 きしきふもてうはつりゆぞとーりりるるまよか
 かどいよこーい球揚たるるもさしりらんらりる女

狂舟巻第一

狂舟人丸と和歌の狂師とて舟仙の長とあり
久く是をうりて身類とを較くことなすいそ
ついでに國の狂人の子と成るにあらざらん
これ狂生の人とて後また天々の舟とてい
多八尾大尾此船とて久き天々の舟とてこれ
しまたけけりて人のいして海ひるはふらり
然の國とてまこれとて終て久しきこれなり
女と戀後つと年とてはまふりしとてつり
ねしとてそとてはまふりしとてつり
石見國は浦とてはまふりしとて

狂舟





狂次

四

西園のついでに時母のついでにふたつとゆつとゆつと
 里より入磨の墓にあり今い城の二の丸を掃くらし
 知人のついでにやしてよめる

人丸のあつきの家は三丸の石垣のついでにふたつとゆつとゆつと
 ○小野小町の夜通娘のついでにふたつとゆつとゆつと
 え〜人丸の海よ年をむけてはとよめれを飯山のついでにふたつとゆつとゆつと
 するつとあつきのついでにふたつとゆつとゆつと
 いわつと

花の色はつとふたつとゆつとゆつと
 とよつとゆつとと百年のついでにふたつとゆつとゆつと
 義の部はつとふたつとゆつとゆつと
 いてはつとふたつとゆつとゆつと

年をむけてはとよめれを飯山のついでにふたつとゆつとゆつと
 とよつとゆつとと百年のついでにふたつとゆつとゆつと
 義の部はつとふたつとゆつとゆつと
 いてはつとふたつとゆつとゆつと

ひて花を...
ひて花を...
ひて花を...

年を暮す...
と...
...

と...
...

年...
...

と...
...

と...
...

狂夜

十四



春色梅美婦称

為永春水作
歌川國直画

初編

以下全て
白紙



